

文=五月女善重  
(五月女総合プロダクト)

## 夢のなか、夢のそと

2008年の秋が深まりかけたある朝、著名な音楽プロデューサーが逮捕されたという一報が飛び込んできました。マスコミはこぞって「時代の寵兒が凋落」と取り上げます。そして保釈が決まった彼は「ピーク時には金がどんどん入り、生活が豪華になつていった。周りの誰からも意見されない、裸の王様だった」という声明を発表しました。

なんと物悲しいコメントでしょうか。

さを詠んだ芭蕉の句がよぎります。その音楽家はスターでしたから、生活ぶりは常に注目されていました。ファーストクラスを借りきった旅行、店を買いためる勢いのショッピング、プロデュースされる華やかなアイドルたち——一挙手一投足すべてが、当時の若者を熱狂させ、夢の種子を振りまいたのだと思います。

僕たちも、ある種の「夢」を、お客様や従業員に提供しています。

経営者も人気音楽家も、誰もがなれる職業ではありません。だからこそ、若い人たちの多くは無邪気に「社長になります」と、口にするのでしょうか。

夢見る彼らを自由な風船にたとえると、僕たち経営者は、彼らが安心して空を泳げるよう糸をしっかりと握り、地に足をつける必要があると思います。彼らのビジョンが大きければ大きいほど、僕たち「夢を与える側」は、夢に責任を負うべきだと思うのです。

しかし今回起訴された彼は、人々の夢

本連載が始まつて間もなく、「叱られて

いますか?」というタイトルで、「権力にすり寄る人の言葉だけに耳を貸すと裸の王様になり、現実を直視できずに組織は崩壊するかもしれない」という趣旨の表現をした僕にとって、他人事とは思えないニュースだったのです。

夏草や つわものどもが 夢の跡

かつて栄華を誇った場所も今は滅び、ひつそり夏草が生い茂る：栄枯盛衰の哀れ

さを詠んだ芭蕉の句がよぎります。

でどうか。

「人はみな平等です」という言葉があります。これは「誰もが同じ立場である」と曲解されることが多いですが、実際のところは「平等に基本的人権が守られる」という意味で、まったく同じという解釈は違うのではないでしょうか。人それぞれ、持つて生まれた役割は違うように思います。僕たちは、生まれながらにして人に夢を与える立場、いわゆる「夢の外側」にいるような気がしてならないのです。

二代目として後継する決意を固めたのなら、その責務をまつとうしなければならない。夢を与える職業に就いたのなら、夢は与え続けなければならない。プロフェッショナルとは、そういうことではないでしょうか。

夢を提供する立場だからこそ、自分が夢の中にいてはいけない。僕たちは、そんな皮肉の中でたくましく生きていく宿命を負っているのかもしれません。 [A]



さおとめ・よしげ

五月女総合プロダクト株式会社代表取締役社長。大学卒業後、父親の営む建築資材会社を経て、26歳でホール業界に。打調整など現場仕事を経験する中で「自分の代になる」という強い意思のもと2000年に屋号をライブガーデンに変更、2003年代表取締役就任。「スタッフが主役の会社づくり」を掲げ、栃木県南部を中心現在9店舗を経営。1965年生まれ。